相馬ジャーナル

Souma Journal

July 2023 No.0

（創刊準備号）

特集 相馬のはじまり

相馬に暮らす、相馬で働く面白い人、頑張ってる人、楽しい人を紹介！

飛馬ン HUMAN

相馬ねぷた愛好会会長 福嶋直人（ふくしま・なおと）さん

地域の結束力が相馬ねぷたの一番の特徴！

1985年、藤沢生まれ。普段は遊漁船の船長として、青森県近海の洋上に立っている。無報酬の会長職は「好きじゃないとできないよね」。何かと苦労も多いはずだが、その表情はつねに笑顔

ねぷたに関心をもったのは、少年のころ。自宅のある相馬地区で運行される子ども会ねぷたを羨望していた。成長を重ねてもねぷたへの憧れは色あせなかったが、愛好会に参加するのはためらいがあった。「偏見だったのかもしれませんが、愛好会というのは農家の人たちの集まりだ、というイメージがあって躊躇していました。実家はもともと勤め人の家で、わたしもサラリーマンだったので」

そんななか相馬ねぷたに転機が訪れる。平成18年（2006）の市町村合併で相馬村が弘前市になったことを契機に、JA相馬村青年部が中心となって相馬地区全体をまとめる「相馬ねぷた愛好会」が発足した。

さる6月11日に小屋掛けが行われ、今年の相馬ねぷたが本格的にスタートした

「初代会長に就いた三上正人さんが『農家も会社員も大人も子どもも男女もなく、相馬に住む、あるいは相馬に関係するすべての人が集まる場にしたい』という方針を打ち出したんです」。福嶋会長が愛好会に参加したのは、それから3年目のことだ。初代会長の方針は今も守られていて、愛好会にはさまざまな年齢・職業の人がいる。もちろん女性も。いろんな垣根を越えて相馬の人々が集まって力を合わせているのが相馬ねぷたの大きな特徴だ、と福嶋会長はいう。

コロナ前、福嶋さんが副会長時代の令和元年（2019）のねぷた。この当時の盛大さが戻ってくる？

「町ごとで運営している愛好会も多いなか、これだけ広い地域で16もの町が団結しているのは弘前市のなかでは相馬だけだと思います。いろんな職業・立場・年齢の人の力を結集できるのが、相馬ねぷたの一番の強みでしょう」

今年のねぷたまつりは感染症対策が大幅に緩和され、久しぶりに例年どおりの盛大なものになる予定だ。福嶋会長が会長になってから初めての本格開催だ。

「楽しく事故なく、というのが一番ですが、会員たちの心の内では『昔のねぷたを取り戻したい、他の地区に負けないすばらしいものを披露したい』という熱意が高まっているようです。後継者育成という大きな課題がありますが、相馬ねぷたが相馬の人々の親睦の場、結束のシンボルとしていつまでも存続できるよう、会員たちの熱い心を受け継いでいきたいですね」

会長就任4年目、ねぷたへの愛情と意気込みはまだまだ上昇中だ。

SOUMA NEWS

相馬で起こったあんなこと、こんなことを一挙掲載!!

初めて参加した1年生たち

協力し合ってラベンダーを植栽

activity

相馬中生がラベンダーロードを整備！

５月31日（水）、相馬中学校の全校生徒が恒例のラベンダーロード整備活動を実施しました。当日はやや風が強めだったものの快晴に恵まれた絶好の活動日和。１～３年生の全校生徒が学年ごとに割り振られたブロックで、除草、ラベンダー苗の植栽、道路周辺のゴミ拾いなどを行いました。今回が初めての活動となる１年生のある生徒は、「暑かったけど、いろんな生物がいて楽しかったです」。一方、「普段からりんご畑を手伝っているので、それに比べれば簡単で楽でした」と３年生はさすがの貫禄。それでも、今年で最後？　と水を向けると、「ちょっと寂しいけど、みんなとやれてよかった。今までで一番楽しかったです。いい思い出になりました」（女子生徒）と話していました。

neputa

相馬ねぷたが本格スタート！

いよいよ、ねぷたの季節が始まりました！　6月11日（日）、相馬ねぷた愛好会による小屋掛けが行われ、令和5年度の相馬ねぷたが本格的にスタートを切りました。新型コロナウイルス対策も緩和され、今年のねぷたは久しぶりに盛大かつ熱気あふれたお祭りになりそうです。

sports

5年ぶりに開催の相馬ソフトボール大会紙漉沢チームが優勝！

相馬地区体育協会（沢田一会長）が主催する相馬地区ソフトボール大会が6月25日（日）、相馬球場で開催され、紙漉沢チームが優勝しました。5年ぶりの開催となる今回は７チームが参加。決勝は、前回優勝の五所チームと紙漉沢チームの対戦となり、紙漉沢チームが競り勝ちました。

優勝した紙漉沢チーム

experience

相馬小3年生が摘果に挑戦!!

夏日を記録した6月6日（火）、相馬小学校3年生17名の児童がりんご体験学習にのぞみました。2回目となる今回は、実すぐり（摘果）。前回の授粉から一歩進んで直接りんごにふれる作業とあって、児童たちのモチベションもさらに上がっていたようです。

ただし、中心果を残してまわりの実を摘む作業はけっして簡単ではありません。当初はなかなかうまく摘むことができず苦労する児童も多かったようですが、徐々にコツをつかむ児童も増え、みな積極的に摘めるりんごを探し回っていました。JA相馬村女性部の協力で行われているこの体験学習は、全6回の予定。最後は自分で収穫したりんごをスイーツにする計画もあるとか。どんなお菓子ができるのか、とても楽しみです。

園主の山内牧さんから取り方を教えられ興味津々の児童たち

「（指の）骨が折れそうだったけど、楽しかった！」とある児童

脚立に登って高所の実すぐりにも挑戦

特集　相馬のはじまり

先史時代から受け継がれる歴史と文化と人の心を未来へ

このページでは、毎回、相馬の魅力や関係深い出来事、おもしろいことなど地域の価値を再確認していただけるような特集テーマを取り上げ、協力隊が（できるかぎり）綿密に調査・検証し、お届けします。

縄文時代から栄えた相馬は東北の邪馬台国だった？

青森市の三内丸山遺跡や弘前市の大森勝山遺跡などの縄文遺跡群が世界文化遺産に登録されたのは、令和3年（2021）のこと。これらの遺跡からもわかるとおり、青森県域は先史時代から日本で最も栄えた地域の一つでした。相馬地域もかなり古くから開けた地域だったようです。というのも、縄文時代前期から中期（だいたい5000～4000年前くらい）の遺跡が多く見つかっているからです。水田稲作が始まるはるか以前から、人々が営々と暮らし続けてきました。

あくまで伝承の域を出ませんが、相馬地区の藤沢にある持寄城跡には、もともと津軽を統括するメノコという女性首長が住んでいたと伝えられています。いわば津軽の女王。古代の女王といえば邪馬台国の女王・卑弥呼が思い浮かびますが、メノコと卑弥呼、なにか似ているように思いませんか？相馬が邪馬台国だったという気はさらさらありませんが、女性リーダーが活躍した相馬は、当時の日本を代表する邪馬台国と並ぶような先進性のある地域だったのかもしれません。

なぜ、いつから〝相馬〟と呼ばれるようになったのか

では、いつから相馬と呼ばれるようになったのでしょうか？

鎌倉時代までの史料には、相馬という地名は見つかりません。現在確認できる文書で〝相馬〟という文字が初めて出てくるのは、建武元年（1334）に書かれた「津軽降人交名注進状」という文書です。カギとなるのは、先述した女王メノコの館。建武元年、この館を舞台に起こった「持寄城の合戦」がヒントを与えてくれました。合戦の詳細についてはまたの機会にゆずりますが、この戦いに敗れ降伏した人の名を記したのが「津軽降人交名注進状」です。そのなかに「相馬入道子息法師丸」という人名が見えます。

この人物に関する詳しい史料は見つからなかったのですが、得宗家（鎌倉幕府の執権・北条氏の嫡

持寄城跡

元弘３年（1333）、鎌倉幕府滅亡の際に再興を期す幕府方の武士たちがここに籠城し、倒幕方を迎え撃った。籠城にあたり、地元民などが武器や食料を持ち寄ったことからこの名がついたといわれる。「もちよせ」のほか、もちより、もよせ、もよりなどとも呼ばれる。案内板の立つ山全体が砦で、かつてはメノコという女性首長の館だったと伝わる（藤沢字野田 244-2）

石戸神社にある石堂

平安時代初期の大同２年（807）、坂上田村麻呂による蝦夷討伐で討ち取られたメノコの亡骸を埋葬し、大岩を重ねてその霊を鎮めたとされる石堂。その際に石戸権現を祀ったのが、石戸神社のはじまりと伝わる。境内には、メノコが討ち取られた場所とされる清泉もある。ちなみにメノコとはアイヌ語で女性のことだそうで、相馬のメノコは神通力自在だったという（湯口字一ノ安田 70）

流）から地頭代に任命された人物のようです。地頭代とは、領地を支配・管理するために設けられた地頭職の代理のこと。いわば代官です。地元の有力者が任命されることも多く、「相馬入道子息法師丸」もこの地の住人だったと考えられます。相馬と名乗ったのは、一応、鎌倉幕府の御家人だった相馬氏の家来、という形をとったからでしょう。つまり、相馬という地名は、鎌倉時代以降に根付いたものと思われます。

平成の大合併で弘前市に編入も受け継がれる〝相馬〟の名

はっきりと「相馬村」という村名を確認できるのは、安土桃山時代の文禄元年（１５９２）の検地帳です。検地帳とは村ごとに田畑の面積や人口などを記録した台帳で、そこには「相馬村　二三四石一斗」と記されています。ちなみに、湯口村は五一一石八斗、紙漉沢村二七〇石三斗、五所村一一九石一斗と書かれていて、現在の町名に相当する村がすでに存在していました。

それぞれの村名には由来があって、たとえば紙漉沢は長慶天皇ご潜幸の際に伝えられた紙漉きの技術に、五所は長慶天皇の御所があったとされることに由来しているといわれます。現在の水木在家は、長慶天皇にお供した水木兵部尉堅正という武士の住まいがあったことからその名になったとか。

現在の相馬地区におおむね相当する旧相馬村が誕生したのは、明治22年（１８８９）のこと。新たな村制の施行にともなって湯口、黒滝、五所、水木在家、紙漉沢、坂市、藤沢、相馬、大助、藍内、沢田の11旧村が合併して一つの村となったのです。明治という新たな時代を迎え正式に「相馬村」としてスタートを切りました。相馬の代名詞ともいえるりんごの栽培が始まったのは、この直後の明治30年ごろのことです。

そして平成18年（２００６）、いわゆる平成の大合併で弘前市に編入。〝相馬村〟という村名は消えましたが、町名に加え、旧相馬村域を示す地域名として「相馬」の名が今も受け継がれています。

Information

令和5年度相馬地区体育祭、開催の方向で検討進む！

相馬地区の一大イベント・体育祭が、久々開催の方向で検討が進んでいます。スポーツを通じて町会および相馬地区内の親睦を深めることを目的としたこの体育祭は、今回で66回目となる歴史深い大会。雨天による中止や新型コロナウイルス感染症の流行により、開催となれば平成29年（2017）以来となります。
主催・主管する相馬地区体育協会では、感染症対策が緩和された今年こそ実施したいと開催する方向で協議を進めています。現在、種目や競技時間などを含めて詳細を鋭意検討中で、決定しだい発表の予定。なお、日時・場所はすでに以下のとおりに決まっていますので、出場を希望される方は、予定に入れておいてください。

日時：令和５年８月20日（日）
場所：相馬小学校グラウンド

写真はすべて平成29年度
相馬地区体育祭より

～掲示板～

◆集え！〝ねぷたの仲間〟たち

相馬ねぷた愛好会が、令和5年度弘前ねぷたまつりに向け、ねぷたの制作・運営・運行などに参加してくれる仲間を大募集しています。相馬ねぷたにかかわってみたいという人なら年齢・性別・職業・居住地（相馬地区以外、県外でも可）は問いません。ねぷた制作手伝い、7月30日の町内運行は、相馬ねぷた愛好会に加入していなくてもかまいません。自分の都合のいい時間に都合のいい立場で、都合のいい作業でいいので、一緒に相馬ねぷたを創り上げてくれる仲間を大募集しています。なお、相馬ねぷた愛好会に加入をご希望の場合は、年会費1世帯（何名でも）1万円の会費が必要となります。入会希望の方は、下記・福嶋直人会長までご連絡ください。

とくに大大募集なのが、お囃子の奏者。笛や太鼓をやってみたいという人は、初心者でもベテラン会員が一から教えます。もちろん、簡単ではありませんが、要はやる気しだい。ねぷたの要といえるお囃子をやってみたいという人は、ぜひこの機会に挑戦してみてください。マンツーマンできちんと指導します。

小屋掛けも終わり、作業にもいよいよ熱が帯びてきました。毎日、夜7時から9時まで、「紙漉きの里」前にあるねぷた小屋に集まってコツコツと作業を続けています。興味のある方は、1日でもいいのでねぷた小屋に来てみてください。

今年は弘前ねぷたも感染症対策が緩和され久しぶりに本格的な祭りとなる予定。多くの人々の前で相馬ねぷたが一番だとほこれるようなねぷたを、一緒に創り上げていきましょう。

《相馬ねぷた今後の予定》

7月23日（日）・・・本ねぷた紙貼り
7月30日（日）・・・町内運行（相馬発）※自由参加
8月 2日（水）・・・土手町（審査日）
8月 4日（金）・・・土手町
8月 6日（日）・・・弘前駅前
8月 7日（月）・・・ナヌカビ　片付け

相馬ねぷた愛好会年会費：１世帯＝10,000円
高校生・大学生＝3,000円

相馬ねぷた愛好会入会申し込み等の連絡先
相馬ねぷた愛好会会長・福嶋 直人 ☎080－4418－2380

ねぷた用半纏ご提供のお願い！

ご不要になったねぷた用半纏はございませんでしょうか？もしご自宅に眠っていて今後も使う予定がないという半纏がございましたら、ぜひ相馬ねぷた愛好会にご提供ください。今年新たに参加する子どもたちにぜひ半纏を着せてあげたいと考えています。ねぷた小屋までお持ちいただければ大変助かります。よろしくお願いいたします！

いろんな告知を大募集！

『相馬ジャーナル』では、掲示板コーナーに掲載するいろんな告知を大募集しています。アルバイトの募集からイベントの参加者、ボランティアなどの募集、さらには応援依頼、コンテストの実施など、相馬の人たちに知らせたいことなんでもOK！　詳細を下記のメールまでお送りください。締め切りは実施日前月の15日まで。メールのタイトルに「掲示板掲載希望」とお書きください。
souma.chiikiokosi@gmail.com

地域おこし協力隊　活動通信　5～6月

●5月1日（月）
弘前市役所本庁舎にて行われた着任式に出席しました。櫻田宏市長から、「ぜひ楽しみながら相馬地区の活性化につながる活動をしてください」とのお言葉をいただき、辞令を拝受いたしました。

●5月6日（土）
りんご公園で開催されたりんご花まつりで、紙漉隊による紙漉き体験イベントのお手伝いをしてきました。

●5月10日（水）～12日（金）
千葉・幕張で行われた「地域おこし協力隊・集落支援員初任者研修」（総務省主催）に出席してきました。

●5月24日（水）
りんご公園で行われた「初心者向けりんご研修」（ひろさき農業支援協議会主催）に出席してきました。第1回目の今回は、摘果の研修でした。

●5月31日（水）
相馬中学校全校生徒による「ラベンダーロード整備事業」に同行しました。

●6月6日（火）
相馬小学校3年生の「りんご体験学習（摘果）」に同行しました。

●6月11日（日）
相馬ねぷた愛好会の小屋掛けをお手伝いしてきました。
（以上、すべて加賀新一郎隊員、穂坂修基隊員）

弘前市相馬地区
公式WEBサイト

@HOSAKA0801SOUMA
穂坂隊員
Instagram

@KAGASHINICHIRO
加賀隊員
Instagram

中央公民館だより

7月の
大募集

こうじを身近に取り入れてより健康に

【こうじ活用講座】
地域でまなぼう！食育講座いただきます
日　時：7月20日（木）10:00～12:00
場　所：調理実習室
参加料：1,000円
講　師：藤田美代子さん（芽女倶楽部代表）澤田登美子さん（芽女倶楽部副代表）
※事前の申し込みが必要ですが、当日参加も可能な場合がありますので、お問い合せ下さい。

子どもから大人まで楽しめます

【相馬で夏の紙漉き体験】
日　時：7月22日（土）、23日（日）
①10:00②11:00③13:00④14:00（各時間で予約を受け付けます。）
場　所：交流センター紙漉の里
参加料：200円
講　師：紙漉き隊　大場良子さん、成田順子さん、清野洋子さん、田中ゆり子さん

先手必勝！ 夏休みの宿題をやっつけよー！

【夏休み宿題お助け隊！】
日　時：7月24日（月）10:00～15:00
場　所：相馬ふれあい館
日　時：7月25日（火）、26日（水）10:00～15:00
場　所：中央公民館相馬館
参加料：無料
講　師：穂坂修基さん（地域おこし協力隊）、金崎文行さん・佐久間結華里さん（ともに弘前市少年指導員）

【児童と高齢者の世代間交流会】
（相馬地区社会福祉協議会と相馬子ども会育成協議会と共催事業）
日　時：7月28日（金）10:00～
場　所：中央公民館相馬館　長慶閣
参加料：無料
※内容については検討中です。

ご予約・お問い合せは中央公民館相馬
☎0172-84-2316まで！

僕の夢 私の夢

相馬郷土史研究会をつくりたい!!

相馬地区地域おこし協力隊
加賀 新一郎

相馬地区の地域おこし協力隊に着任して、2ヶ月余りが過ぎました。相馬に越してからはおよそ4ヶ月。少しずつながら相馬での暮らしに慣れてきて思うのは、「この土地の歴史をもっと知りたい」ということです。

長年、歴史雑誌の編集に携わってきて僕がとくに関心を抱いていたのは、日本という国の起源です。近年はゲノム解析などの技術が進んで、日本列島にはじつにさまざまな地域から人々が集まってきていることがわかっています。いきおい、地域によってさまざまな文化が根付いて歴史を積み重ねてきました。その歴史を知ることは、地域の価値を認識することにつながるはずです。今回、特集で「相馬のはじまり」をテーマにしたのは、本誌が少しでも地域の皆さんにあらためて相馬の価値を認識してもらう手助けになればという思いからです。これからも機会があれば相馬の歴史にふれていきたいと思います。

残念ながら、相馬について書かれた鎌倉時代以前の史料はなく、起源については杳として知れません。ただ、地域からは縄文時代の遺物も多数出土していて、かなり古い時代から人々が暮らしていたことがわかります。津軽初の寺子屋跡とされる史跡もあって、青森圏域でもかなり先進的な地域だったと思うのです。

そんなことを含めて相馬の歴史をツラツラと調べていく研究会のようなものをいつかつくりたい、と思っています。同じような思いの方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。あまり堅苦しくは考えず、まずは史跡めぐりや伝承集めといった〝お遊び〟からはじめてみませんか？

穂坂隊員の

サイクル日記

ロードバイクという自転車に乗るのが趣味なので、ペダルを漕ぎながら相馬を感じています。

横浜市から遊びにきた彼女とは、羽根山（農村公園）に行きました。

相馬地区を一望しながら、「なんで相馬っていう名前なんだろうね」と話しました。「武家の相馬氏や、福島県相馬市、新潟県新発田市相馬と関係があるのかもね～」と言って会話は終わりましたが、結局地名の由来は現在も分からずじまいです。相馬の名前の由来をご存知の方は、ぜひ教えてほしいです。

このように、協力隊である穂坂修基がロードバイクで相馬を走って、見たり聞いたりして思ったことを書いていこうと思います。次号からも、どうぞお楽しみに！

【予告】教員経験を活かして、放課後の学習サポート（もちろんタダです）をしたいと考えています。詳しい情報は今後発信します。

相馬地区広報誌
相馬ジャーナル
July　2023　№０（創刊準備号）
◆発行者
相馬地区地域おこし協力隊
〒036－1592
青森県弘前市大字五所字野沢41番地１（弘前市相馬庁舎）
電話：090－3102－6110（地域おこし協力隊）
0172－84－2111（代表）
e－mail：souma.chiikiokosi@gmail.com（地域おこし協力隊）
◆編集
相馬地区地域おこし協力隊（加賀新一郎、穂坂修基）
◆発行日
2023年７月11日

大募集！

編集部では、相馬の皆さんの声を大募集しています。
たとえば……
・『相馬ジャーナル』についてのご意見・ご感想
・取り上げてほしいテーマ
・「飛馬ン（ヒューマン）」「僕の夢 私の夢」への登場希望または推薦
・告知したいイベントや募集情報、注意情報
などなど、なんでもかまいません。以下のメールか電話にご連絡ください。
E-mail：souma.chiikiokosi@gmail.com
電話：090－3102－6110（地域おこし協力隊直通）